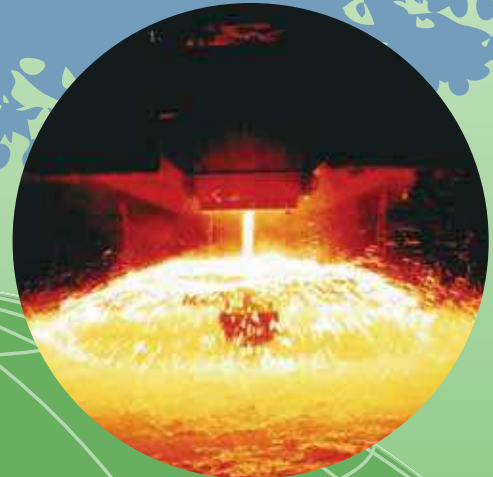




大平洋金属株式会社

環境・社会報告書

Sustainability report 2019

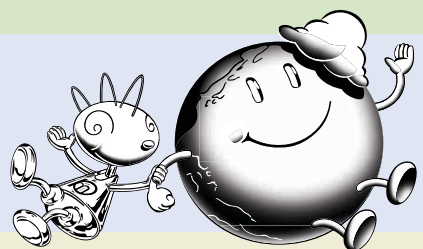


会社概要 2
 トップメッセージ 3
 長期ビジョン達成に向けた取り組み 5
 大平洋金属関連会社の紹介 9
 統合マネジメントシステム 11
 コーポレートガバナンス 13

環境に配慮した製造プロセス ～フェロニッケル製造工程～ 15
 環境負荷低減に寄与するエコ製品 17
 環境に貢献するサービス ～廃棄物リサイクル事業～ 18
 環境負荷低減の取り組み 19

お客様とともに 21
 株主・投資家とともに 22
 地域社会とともに 23
 従業員とともに 24

第三者意見/第三者意見を受けて 25
 大平洋金属の歩み 26



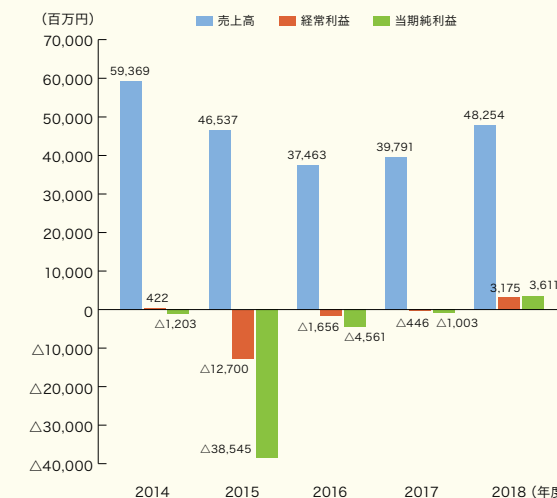
PAMCOクン
 当社初のキャラクター“PAMCOクン”。当社のシンボルとして、顔として、大平洋金属を力強くPRしていきます。

環境・社会報告書2019の編集にあたって

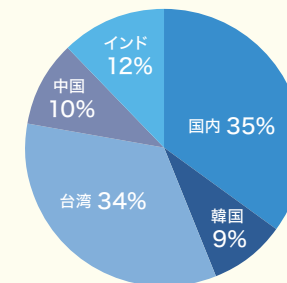
編集方針	本報告書は、2018年度の大平洋金属株式会社の事業活動と統合マネジメントシステムの取り組みについて紹介しています。環境、品質、労働安全衛生の取り組みを中心に、中期経営計画やIR活動など社会的側面の記事を充実させ、株主・投資家も含めたステークホルダーの皆様へさらなる情報公開を行うことを目的としています。
報告対象範囲	大平洋金属株式会社（国内事業所） ※活動内容には、一部グループ会社を含みます。
報告期間	2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日） ※一部対象期間外の活動報告も含みます。 発行月 2019年11月
参考ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」 GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」
公開媒体	当社Web サイト [URL] https://www.pacific-metals.co.jp/environment/report.php
免責事項	本報告書に掲載した内容は、過去の事実だけでなく、記述時点の状況に基づく予定や見通しを含んでいます。そのため、将来の活動内容や結果が掲載内容と異なったものとなる可能性があります。

社名	大平洋金属株式会社 (PACIFIC METALS CO.,LTD.)
代表者名	代表取締役社長 佐々木 朗
創立	1949年（昭和24年）12月1日
年商	48,254 百万円（単体）
従業員数	411 名（単体）
資本金	139億円
事業所	東京本店 / 八戸本社（製造所） / フィリピン事務所 / ジャカルタ事務所
生産品目	フェロニッケル、フェロニッケルスラグ

■財務関連指標



■地域別販売数量構成比（フェロニッケル）



経営理念

人の力を活かし、地球の資源をより有用なるものとして提供し、人類社会の幸福に貢献する

経営方針

1. 当社グループ全体の経営戦略を一体化して、グループ各社のシナジー効果を最大限に発揮すること。
2. 世界に誇る製錬技術の開発と品質向上に全力を傾注し、経営の効率化と競争力で世界有数の基盤を確立すること。
3. コンプライアンスを推進すること。
4. 公正・透明・自由な競争を通して、適正な利益を確保すること。
5. かけがえのない地球を守るため、あらゆる環境問題に積極的に取り組むこと。
6. 社員の個性を伸ばし創造性を十分に発揮させるとともに、物心両面のゆとりと豊かさを追求し、生きがいのある職場を実現すること。
7. 広く社会との交流を進め公正な企業情報を積極的に開示すること。



前中期経営計画PAMCO-30の総括

当社は、世界の政治、経済の急激な変化に対応するため、自社の強みである「顧客からの信頼」、「高効率な生産・販売」、「優れた環境管理」などをより一層確固たる経営基盤に構築することを目的に、世界トップクラスのエロニッケルメーカーを目指すという長期ビジョンの達成に向けて取り組んでおります。その長期ビジョンのFirst Stageである最初の3年間を「環境急変対応の基盤固め」と位置づけ、中期経営計画であるPAMCO-30を策定し、2018年度まで活動を行ってまいりました。

PAMCO-30の計画期間である2016年度から2018年度は、LME (London Metal Exchange : ロンドン金属取引所) ニッケル価格の低迷、インドネシア鉱石禁輸の一

部緩和、鉱石の低品位化、中国政府の環境規制によるステンレス生産の上限圧力、電力コストの高止まりなど、さまざまな事業環境の変化がありました。このような状況の中、社員一丸となってPAMCO-30の各施策に取り組めたこと、特に、収益面・生産面での改善により、3年間で約26億円ものコストダウンができたことは非常に大きな成果でした。社員一人ひとりが自らコストを如何に低減するのかを考え、できることを徹底的に積み上げ取り組んだ結果であると思います。

しかし、PAMCO-30で掲げていた施策は、まだ道半ばであると考えています。継続的な課題である低コスト操業の推進、低品位鉱石への対応、鉱石の安定調達、環境・安全対策等については次のステージにもしっかりと反映し、継続して取り組んでまいります。

新中期経営計画PAMCO-2021の策定

長期ビジョン達成のためのSecond Stageとして、前中期経営計画で築いた基盤の更なる強化を目指し、新中期経営計画 (PAMCO-2021) を策定しました。

基本方針は、「経営基盤の強化・再整備並びに成長に向けた戦略の絞り込み」、「社会的・経済的価値の創出」の2項目からなり、事業環境の急変にも対応できる筋肉質な企業を目指すとともに社会の持続可能性に配慮した企業への成長を目指します。

今後広がり懸念される資源ナショナリズム等の社会構造の変化を見据え、より安定的なフェロニッケル生産体制を構築・強化するとともに、事業環境の変化に柔軟に対応できる組織と人材の強化を重点施策として取り組みます。また環境対策に加え、安全管理も事業維持の基盤であり、誰ひとり怪我をさせないための教育を今後も時代や社会の変化に合わせて追及してまいります。

持続可能な社会の実現への貢献

PAMCO-2021のターゲットの一つに「持続可能な社会の実現への貢献」を掲げております。これは、国連において採択された持続可能な開発目標「SDGs」に積極的に取り組むことにより社会に貢献する企業に成長することと考えています。

具体的には省エネ設備への改良、高温排ガス再利用による省エネルギー対策や、排水終末処理施設による水質汚濁防止対策とその処理水の再利用実施、そして、従来から徹底しているフェロニッケルスラグの全量リサイクル化による循環型社会への貢献等、環境対策について積極的に推進してまいります。

また、東日本大震災被災地へのフェロニッケルスラグ土木資材の供給、工場周辺や地域の清掃活動の実施や、地元サッカークラブチームへの協賛や地域活性化活動への参加により地域社会との共生を目指します。「八戸工場大

学」にも継続して協力しており、2018年度は講師派遣や工場見学会を実施しました。

さらに、コーポレートガバナンスの充実・強化のため、統合マネジメントシステム (IMS) の活用による法規制順守に取り組んでいます。今後も情報開示を拡充し、当社の取り組みをすべてのステークホルダーの方々にご理解いただくため、より積極的に当社の活動や考え方を発信していきたいと考えています。

働きがいのある企業を目指して

当社の長期ビジョンは、「総合力トップクラスのエロニッケルメーカーを目指す」です。収益を上げることで当社を将来にわたって存続させ、当社で働く社員の雇用を守り、その家族を守り、働きがいのある職場を作りたいとの思いがあります。

我々は一生の中で、多くの時間を会社で過ごします。社員の皆さんにはこの貴重な時間をやりがいを持って働いてもらいたいという思いから、新しい人事制度を構築、導入しました。この制度は社員一人ひとりが仕事に目的意識を持ち、継続的に成長していく制度であると考えています。また、当社では改善提案制度を実施しています。前中期経営計画期間においてコストダウンなどの大きな成果があったのは、この改善提案制度の効果であったと考えています。応募数は毎年増加しており、意気込みを持った社員が増えていることを実感しています。社員一人ひとりが目的意識を持ち、事業活動に積極的に取り組むことで、今後も厳しい環境を乗り越えていけると確信しています。

当社は「人の力を活かし、地球の資源をより有用なるものとして提供し、人類社会の幸福に貢献する」という経営理念のもと、企業価値の向上と持続可能な社会の実現に向け邁進していく所存であります。

今後とも、みなさまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 佐々木 朗

長期ビジョン達成に向けた取り組み

近年の当社を取り巻く事業環境の変化に対応可能な経営基盤の確立および継続的な成長のため、長期ビジョン「総合力世界トップクラスフェロニッケルメーカーを目指す」を掲げました。2016年5月に長期ビジョン達成のためのFirst Stageとして、PAMCO-30を策定し、いかなる

事業環境下においても利益の出せる強靱な企業体質の構築とSecond Stageへの種まきを主軸に邁進してきました。2018年度におけるPAMCO-30の取り組みは概ね達成となりました。引き続き、未達成となった取り組みも含め、長期ビジョン達成に向け邁進していきます。

PAMCO-30の2018年度活動実績

◎：達成 ○：概ね達成 △：未達成

PAMCO-30 重点施策	具体的施策	達成状況	2018年度の活動実績
フェロニッケルの生産・販売施策の強化	八戸製造所を最大稼働し生産することを基本施策とし、将来の鉱石調達リスクおよび生産拡大を踏まえた海外製錬の展開も視野に入れた生産戦略の推進	○	市況低迷時における機動的な生産・販売基盤を構築し、高効率操業を継続しました。また、海外事業の具体的な絞込みに着手しました。
	当社製品の優位性を生かした差別化およびCS活動向上	◎	高品質の製品提供および顧客要望への対応等により、顧客満足度調査において高い評価をいただきました。
ニッケル資源調達の安定化	既存取引先との長期契約および拡販の道筋追求	◎	市場状況を踏まえた取引先との対話により、最良な契約および販売に努め、安定顧客向けの販売量・販売比率ともにアップしました。
	ニッケル鉱石の長期安定調達と最適な調達コストの追求	○	資源サプライヤーとの対話により、資源調達の安定化に向けた取り組みが前進しました。
収益性の強化	将来の湿式製錬事業への方向性追求	○	将来の湿式製錬事業の方向性を定め、湿式製錬技術の追究体制を強化しました。
	高効率の製錬技術の開発などを含む低コスト生産体制の追求	○	あらゆる角度からの合理化の追求により、収益性が改善しました。
技術力・現場力の強化	将来の収益基盤の強化のため新規事業の創出	△	新規事業アイデアの抽出と事業性の検討を進めました。
	人材の育成のための階層別教育プログラムおよび人事施策を構築	◎	乾式製錬における石炭原単位低減等の技術力が向上しました。また、新たに導入した人事制度の運用に努めました。
環境対策および労働安全衛生対策の強化	社内自主管理の徹底による大気・水質汚濁防止および省エネ推進による地球温暖化防止などの環境保護対策のさらなる強化	○	社内自主管理の徹底による大気・水質汚濁防止に努めてきましたが、省エネ推進についてはCO ₂ 排出量の削減に課題が残りました。
	心身両面での健康管理の強化および安全風土の醸成による安全意識の高揚を図り、無災害の樹立	△	現場の主體的・自主的安全活動強化を図りましたが、無災害の達成はできませんでした。
コンプライアンス、ガバナンス体制の強化	内部統制システムの充実およびコンプライアンスの強化	○	法令等の改正に伴う社内体制を見直し、また、内部統制に関する社内教育および内部監査結果の共有化を実施しました。

PAMCO-30 (2016～2018年度)の総括

①生産・販売・購買

- CS活動と機動的な対応により、事業環境急変の中において安定した生産・販売基盤を構築。
- 事業環境急変への対応を優先したことにより、一部の生産基盤設備の更新を先送り。
- ニッケル鉱石の低品位化・鉱量減少への対応は残るものの、資源サプライヤーとの対話により、資源調達安定化に向けた取り組みが前進。

②収益性

- あらゆる角度からの合理化の追求および一部不採算製品の生産販売終了により、収益性が改善。(3カ年計26億円の改善)
- 海外事業の検討体制を構築し、具体的な検討に着手。

③技術力・現場力

- 乾式製錬は石炭原単位の低減等、技術力が向上。また、湿式製錬は技術追究体制を強化。
- 社員の意識向上を目指した新人事制度の導入により、人材強化基盤を構築。

④コンプライアンス・ガバナンス

- 環境および労働安全衛生の諸対策に取り組んだものの、CO₂排出量の削減、ゼロ達成の課題が残る。
- コンプライアンス・ガバナンス体制の見直しにより基盤は強化できたが、さらなる強化を継続し取り組む。

一部の対応継続の課題は残るものの、一定の基盤固めはできました。次のステージに確実に繋ぎ、長期ビジョンの達成に向けた取り組みを推し進めています。



- PAMCO-30で築いた基盤のさらなる強化
- 継続的成長のための戦略の絞込み
- 社会の持続可能性に配慮した企業への成長

PAMCO-2021の策定

当社は長期ビジョン達成のためのSecond Stageとして、PAMCO-30で築いた基盤のさらなる強化、継続的成長のための戦略の絞り込み、さらには社会の持続可能性に

配慮した企業への成長を目指し、新中期経営計画であるPAMCO-2021を策定しました。

当社を取り巻く環境

PAMCO-2021の策定にあたり、PAMCO-2021の対象期間である2019年度から2021年度に想定される、当

社の事業環境等のリスクおよび機会（チャンス）を洗い出しました。

想定されるRisk	想定されるOpportunity
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルリスクのコモディティー市場への影響拡大 ・資源ナショナリズムの拡大 ・電力環境の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・堅調な伸びが見込まれるステンレス需要 ・EV 市場拡大に伴うバッテリー由来のニッケル需要増 ・足下のLME ニッケル在庫減少 ・ニッケル供給不足の継続見込み

PAMCO-2021の基本方針と重点施策

基本方針	重点施策
◇経営基盤の強化・再整備並びに成長に向けた戦略の絞り込み	
①最適生産体制構築のための「設備」の強化と「鉱石」の安定調達 ②海外事業展開を視野に入れた取り組み	◇フェロニッケルの最適生産・販売体制の構築 ・生産体制 海外製錬の展開を含めた全体最適生産体制の構築および経営基盤のさらなる強化 ・販売体制 既存取引先への安定的販売強化、さらには新規の顧客獲得 ◇ニッケル資源調達の長期安定化 ・既存契約更新をベースにソース拡大も視野に長期安定調達 ・資源権益取得、海外製錬等への取り組み
③国内事業の多角化	・収益変動の低減と将来の収益基盤強化に資する事業の多角化を目指す
④収益力の強化	・コストダウンを推し進め、収益性の高い最適生産体制を追求する
⑤事業環境の変化を見据えた「組織」と「人材」の強化	・目標達成に向けた柔軟かつ最適な組織づくり ・スキル底上げによる人材の強化
⑥キャッシュ・フロー重視の経営	・適正な資産状態を維持し、効率的なキャッシュ・フローを把握することにより、経営の安定化を高める
◇社会的・経済的価値の創出	
⑦持続可能な社会の実現への貢献	・地球温暖化防止対策の追求、地域並びに資源国発展への寄与 ・従業員一丸となったゼロ災達成 ・コンプライアンス、ガバナンス体制の強化

新中期経営計画PAMCO-2021の策定

当社は、2019年度からの3か年目標として新中期経営計画PAMCO-2021を策定しました。前中期経営計画であるPAMCO-30は、長期ビジョンにおける「環境急変対応の基盤固め」として設定され、PAMCO-2021は「基盤強化および継続的成長のための戦略絞り込み」と位置づけています。

PAMCO-30では、計画初年度から非常に厳しい事業環境にありましたが、社員全員で危機感を共有し、知恵を絞ってアイデアを出し合い、一丸となって乗り越えることができました。そのような風土・体制ができたことが、私としては一番大きな成果であったと感じています。

PAMCO-2021は、PAMCO-30で築いた基盤を一層強化、加速したいと考えています。特にニッケル鉱石の安定調達に加え、ニッケルだけに頼らない第二の事業、つまり事業の多角化の検討が重要であると考えています。また、全社員のスキル向上の施策として人事制度の再構築と人事ローテーションを行い、人材の強化を図ることも検討していきます。

長期ビジョン達成に向け、確固たる経営基盤を構築し企業価値の増大を図るため、全社総力を挙げて取り組んでいきます。



取締役 専務執行役員
社長補佐、内部統制・総務担当、
人事部長
藤山 環

ESGへの取り組み

PAMCO-2021の基本方針の1つである「持続可能な社会の実現への貢献」を達成するため、ESGに関する以下の取り組みを推進・強化していきます。

環境 Environment	<ul style="list-style-type: none"> ・フェロニッケルスラグの全量リサイクルによる循環型社会への貢献 ・地球温暖化ガス（CO₂）の排出量削減による地球温暖化防止への寄与 ・事業活動における大気汚染、水質汚濁の防止
社会 Social	<ul style="list-style-type: none"> ・地域および資源国の発展の寄与による共生促進 ・工場周辺や地域の清掃活動の実施 ・ゼロ災の達成と従業員の心身両面での健康管理の強化
ガバナンス Governance	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの強化 ・コーポレートガバナンスコードに準拠した体制の強化

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年に国連総会で採択された「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための2030年に向けた17の目標です。当社の中期経営計画そのものが、世界の目標であるSDGsの理念と関連していることから、日頃の事業活動を通じてSDGsを積極的に推進し、社会の持続的発展に貢献していきます。



大平洋金属関連会社の紹介



大平洋金属のグループ会社、関連会社は独自の高度な技術や経験を生かし、それぞれの事業で社会の発展に寄与しています。また、事業活動においては、環境への配慮と労働安全衛生の確保に努めています。

当社は世界有数のフェロニッケルメーカーとして、海外にも積極的に進出し、フィリピン、インドネシアなどの現地企業と協力して資源の開発を進めています。国際ルールや現地の法令を順守し、各国の発展に貢献する企業活動を行うため、SDGsなどの人権に関する国際目標も踏まえ、現地の伝統・文化・商習慣・労使慣行等にも十分な配慮をしています。

株式会社大平洋ガスセンター

酸素ガス、窒素ガスおよびアルゴンガスの製造並びに販売

〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字海岸20-2
TEL 0178-47-1500

● 資本金：1億円 ● 創業：1989年11月
● 所在地：青森（本社・工場）



太平洋興産株式会社

当社のフェロニッケルスラグの販売および運搬請負業務並びに不動産事業

〒031-0071 青森県八戸市沼館3-7-22 TEL 0178-47-0555

● 資本金：5千万円 ● 創業：1980年12月 ● 所在地：青森（本社）



株式会社パシフィックソーワ

鍛造鋼品、各種産業機械、油圧機器、金属粉末、MIM製品、各種資材の販売

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビル TEL 03-4243-1234 <http://www.pacificsowa.co.jp/>

● 資本金：4億3千2百万円 ● 創業：1956年10月 ● 所在地：東京（本社）

大平洋製鋼株式会社

普通鋼鍛鋼品、特殊鋼鍛鋼品、ステンレス鋼鍛鋼品、NTロール、その他各種大型鍛鋼品の製造販売

〒930-0808 富山県富山市下新日曹町1-93
TEL 076-432-4175

<http://www.pacificsteelmfg.co.jp/>

● 資本金：7億円 ● 創業：1938年4月
● 所在地：富山（本社・工場）



大平洋ランダム株式会社

光通信部材、炭化けい素系研削材および半導体部材の製造並びに販売

〒931-8555 富山県岩瀬赤田町1番地 TEL 076-438-1211 <http://www.rundum.co.jp/>

● 資本金：4億円 ● 創業：1936年10月 ● 所在地：富山（本社・工場）



大平洋特殊鑄造株式会社

耐熱鑄鋼品、耐磨耗鑄鋼品、ステンレス鑄鋼品、精密鑄造品、埋設水道管用ステンレス継手、電子ビーム穴明加工品の製造並びに販売

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1
丸の内永楽ビル

TEL 03-4243-1257

<http://www.psc-cast.com/>

● 資本金：4億9千万円 ● 創業：1932年1月
● 所在地：東京（本社）、新潟（工場）



大平洋機工株式会社

スラリーポンプと各種ミキサを中心とした30年以上の歴史を誇る総合メーカー

〒275-8528 千葉県習志野市東習志野7-5-2 TEL 047-473-6181 <http://www.taiheijo-kikou.com/>

● 資本金：4億9千万円 ● 創業：1984年7月 ● 所在地：千葉（本社・工場）



米子製鋼株式会社

鑄鋼品等の製造販売

〒683-0103 鳥取県米子市富益町88番地1
TEL 0859-28-8111

<http://www.yonago.co.jp/>

● 資本金：1億円 ● 創業：1904年3月
● 所在地：鳥取（本社・工場）



海外関連会社

リオ・チュバ・ニッケル鉱山株式会社 - Rio Tuba Nickel Mining Corporation

ニッケル鉱石の採掘、販売

28/F, NAC Tower, 32nd. St., Bonifacio Global City, Taguig City, Philippines

● 資本金：25億5千万ペソ ● 創業：1969年7月 ● 所在地：フィリピン



タガニート鉱山株式会社 - Taganito Mining Corporation

ニッケル鉱石の採掘、販売

28/F, NAC Tower, 32nd. St., Bonifacio Global City, Taguig City, Philippines

● 資本金：40億ペソ ● 創業：1987年3月 ● 所在地：フィリピン





品質管理、環境管理、労働安全衛生管理の3つのマネジメントシステムを、統合マネジメントシステム (IMS) として運用しています。PAMCO-2021における目標達成のツールとして経営方針をIMS方針と位置づけ、このシステムを最大限に活用していきます。

ISO認証登録

当社は、ISO9001、ISO14001、およびOHSAS18001を認証登録し維持しています。2015年度から、統合審査として、3つのシステムの審査を同時に受審しました。

■認証登録情報

認証規格	登録範囲	登録番号	有効期限	初回登録
ISO9001:2015	八戸本社（製造所） 東京本店	0314	2021年2月15日	1998年4月9日
ISO14001:2015		E1998		2009年3月19日
OHSAS18001:2007		H063		2012年2月16日



ISO9001登録証 ISO14001登録証 OHSAS18001登録証

統合審査では、審査員から経営者の強いリーダーシップの下で、妥当性を維持していると判断していただきました。特に、2015年版移行に沿った「中期経営計画の目標活動テーマ」の策定様式を改訂し、活動の有効性を確認する仕組みを構築し運用したこと、また、主たる利害関係者であるお客様からのニーズと期待として、フェロニッケル価格の安定化、安定供給を最大の使命と捉え、事業活動を

法規制順守の取り組み

当社は、法規制等の順守を事業活動の最も重要な項目の1つに位置づけ、順守に関する手順を定めるとともに、定期的に現場や書類などの監視・点検を行っています。2018年度は法規制や基準の重大な違反はありませんでした。

また、2018年度の労働災害については、当社および協力会社でそれぞれ2件発生しました。当社が労働安全マネジメントシステムを導入してから6年になり、管理のサイクルを回して安全活動を継続していますが、残念ながら2018年度も無災害の達成はできませんでした。

2018年度は、組織体制等の変更がありましたが、マネジメントシステムに重大な不備はなく、認証登録が維持されました。

行っていることが評価されました。

ISO9001では、PAMCO-2021に向けた内部体制強化の施策として、新人事体制の構築、データ改ざん等の不祥事防止に向けた意識向上活動が事業継続性を支える重要な活動として高く評価いただきました。

ISO14001では、省エネルギー、省資源、CO₂排出量削減と、例年同様順守義務の履行および基準の逸脱がなく、環境事故の防止に取り組んだことなどが評価されました。

OHSAS18001では、運用を開始した2012年以降減少傾向であった災害件数が昨年6件となり、取り組みを強化したこと、また、作業環境測定結果に基づいてプロセスを改善し、粉じんの管理区分を大幅に改善していたことを評価いただきました。

労働災害防止のために、マネジメントシステムの基本をなす「計画(Plan)-実施(Do)-評価(Check)-改善(Act)」という一連の過程を確立し、職場での自主的な安全衛生管理をより一層推進するとともに、より安全な職場環境を形成するよう呼びかけています。

従業員一人ひとりが、それぞれの役割を認識して自主的に活動することで安全意識を向上させ、当社・協力会社ともに一丸となって無災害を目指します。

環境会計および安全会計

2018年度の環境会計および安全会計の集計結果を下に示します。

■環境会計の集計結果（環境保全コスト）

分類	主な内容	費用(万円)
(1) 事業エリア内コスト	公害防止コスト	17,799
	地球環境保全コスト	4
	資源循環コスト	16,807
(2) 管理活動コスト	ISO審査費	2,948
	構内緑化・管理費	
	環境・社会報告書作成費	
	各種モニタリング装置維持管理費	
(3) 社会活動コスト	近隣一般道路清掃費	20
(4) 環境損傷対応コスト	汚染負荷量賦課金	13,115
合計		50,693

サプライチェーンマネジメント

当社は、生産現場だけでなく、サプライチェーンの各段階において、環境との調和に配慮したさまざまな活動を行っています。

フェロニッケルの原料となるニッケル鉱石をフィリピン、ニューカレドニアから輸入しています。現地鉱山では、鉱石採掘後の跡地を可能な限り原状回復（リハビリテーション）させるために植林を行うことが義務付けられています。

2018年度は、その植林に関する情報を収集し、他鉱

山への開示許可を取得した後、各鉱山に情報提供を行いました。

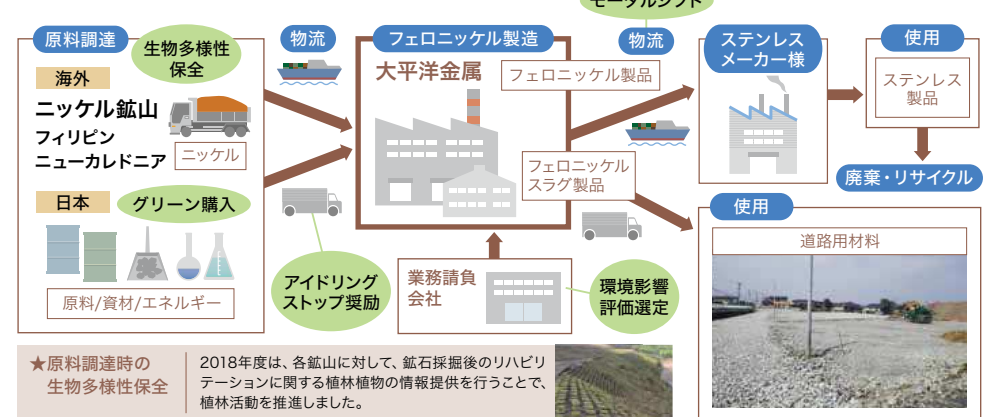
また、鉱石などの固体ばら積み貨物の海上輸送については、国際的に統一された安全規制が行われています。当社はこのような国際規制に対しても積極的に準拠し、船舶における事故をなくすことで、安全対策、環境配慮を行っています。

2018年度は、その植林に関する情報を収集し、他鉱

■安全会計の集計結果

分類	金額(万円)
(1) 設備投資（安全対策工事等）	475
(2) 安全衛生・防災教育費	453
(3) 法定検査費（ボイラ・クレーン・消防関係）	736
(4) 健康診断等費	1,000
(5) 安全衛生保護具費	1,297
合計	3,961

■大平洋金属のサプライチェーン概要図



★原料調達時の生物多様性保全
2018年度は、各鉱山に対して、鉱石採掘後のリハビリテーションに関する植林植物の情報提供を行うことで、植林活動を推進しました。

斜面安定と緑化のために植えられた芝生と樹木

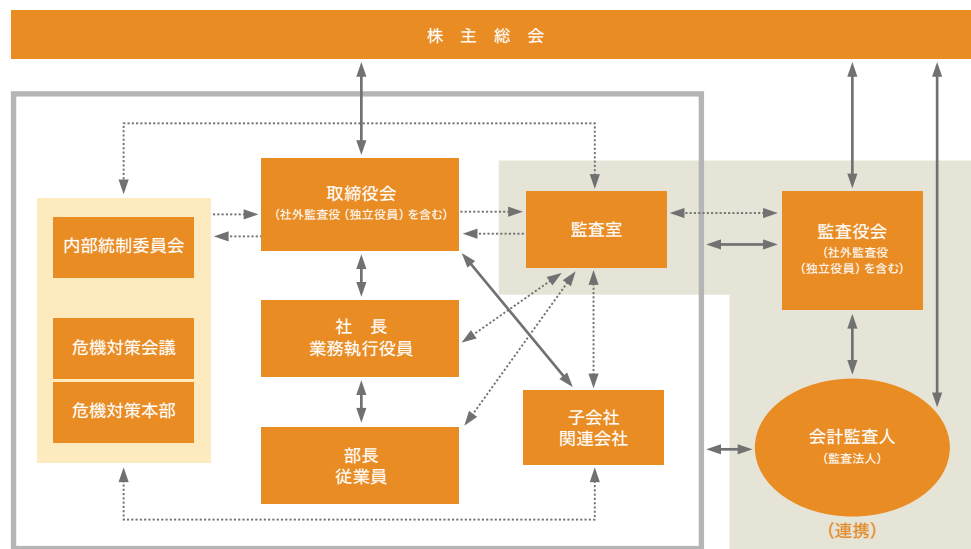
当社は、企業価値の向上を目指し、迅速な意思決定と経営の効率化を図るとともに、監督機能の強化によって経営の透明性や健全性を確保することで、コーポレートガバナンスの強化・充実を図っています。その中で、リスクマネジメントおよびコンプライアンスに関する対応も確実に進めています。

コーポレートガバナンス体制

当社は、取締役・監査役制度を中心にコーポレートガバナンスの充実を図り、公正で透明性のある経営機構を構築することを基本的な考えとしています。

当社の経営体制は、2019年6月より社外取締役2名を含む取締役9名、社外監査役3名を含む監査役4名で構成されています。

■コーポレートガバナンス体制 → 従来の業務等の流れ 内部統制についての報告、指示、監査、選任等の意味



●取締役会

取締役会は、経営環境の変化に迅速かつ適切に対応するため、毎月の取締役会開催に加え取締役間で随時打ち合わせを行い、迅速な対応、効率的業務の執行および取締役間の業務の執行監視を行っています。

●経営計画委員会

経営計画委員会は、取締役および所管部長・室長により構成され、会社の業務運営方針および経営計画（原案）を策定し社長に答申します。社長は答申に基づき当該計画を取締役に提案します。

●監査役会

監査役会は、取締役の公正な業務執行を期するために

監査を行います。独立性を保つため、非常勤を含めた監査役全員がすべての取締役会に出席できる体制にしています。

当社は、「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を公表しています。この基本方針は、当社のコーポレートガバナンスの考え方や枠組みを示し、株主をはじめとするステークホルダーの皆様へ、当社の経営が公正で透明性の高いものであることをご理解いただくことを目的としています。

さらに、全社員を対象に内部統制の基礎知識を学ぶビデオ研修を実施し、当社社員として適正な行動を心掛けることを啓発しています。

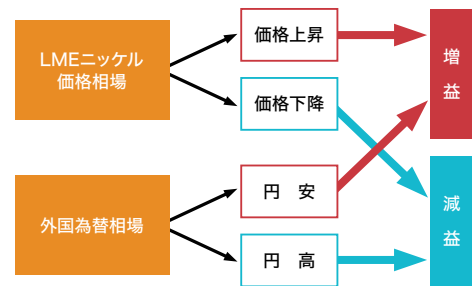
リスクマネジメント

企業を取り巻く環境は変化が早く、多様なリスクが存在し複雑化しています。このような経営環境の中で、事業をリスクから守るため、当社ではさまざまな対策を講じています。

当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性のあるリスクとしては、事業の大部分を占めるフェロニッケル製品に限定されます。

販売価格に影響する要因として、LMEニッケル価格と外国為替相場があり、当社製品価格に大きな影響を及ぼします。そのため、LMEニッケル価格の変動リスクに対しては、販売数量の一部について、リスクヘッジを考慮に入れた売買契約を締結しています。また、外国為替相場の変動リスクについては、販売金額の一部について、為替変動リスクヘッジを実施する方針です。当社は、収益の安定と確保のため、両要素の変動に最大限の注意を払っています。

■事業等における主なリスク



また、大規模な事故や災害、不祥事などへの対処については、会社、関連会社および従業員等に重大な影響を及ぼす危機を未然に防ぐ体制を構築することを目的とした「危機管理規定」を制定しています。平常時より「危機対策会議」において事故や災害などについての事前防止活動、定期的な設備点検等を行っています。有事の際には、緊急対策を講じるため「危機対策本部」を設置し、社長を本部長として対応することを規定しています。

経営管理上のリスクについては、取締役会に上程し、対応を決定しています。また、日常業務におけるリスクは、管理規定や業務マニュアルなどを作成し対応しています。

コンプライアンス

当社は、「経営方針」、「企業倫理規範」、「企業行動基準」を取締役に制定し、法規制等の順守を掲げています。また、これらの方針や規範などに基づいた業務の執行を確保するため、取締役会の諮問機関として内部統制委員会を設置し、管理することでコンプライアンスの強化を図っています。

当社は、コンプライアンスならびに社会的規範の順守に関して以下を掲げ、取締役をはじめとする役員および従業員全員が認識し、業務を遂行しています。

1. コンプライアンスおよび社会的規範ならびに社会的良識に基づいた企業活動を行う。
2. 社会の秩序・安全を脅かす反社会的勢力と絶縁し、健全な企業活動を行う。
3. 国際的企業活動において、国際ルールや現地の法令を順守し、また現地の文化や習慣を尊重し、その国の発展に貢献する企業活動を行う。

当社の業務における法令順守を確保するため、全ての部署において、関係法令等の定期的順守状況の把握と問題点の抽出を行い、四半期毎に点検を実施しています。その結果は、取締役会に報告を行っています。

コンプライアンス教育として、新入社員、管理職等へ映像研修を行い、コンプライアンスの重要性について認識を深めています。

反社会的勢力排除の取り組み

当社は、反社会的勢力および団体など一切の関係を持たないこと、また、反社会的勢力および団体などからの要求を断固として拒否することを規定しています。

従来から担当窓口を設置して情報を一元管理するとともに、警察や特殊暴力防止対策連合会などの関連団体と連携する体制を整えています。また、従業員への啓発として「不当要求の手口と対応」等の映像研修を行っています。

当社は、ステンレス鋼の主原料となるフェロニッケルを主力製品として製造しており、フェロニッケル製造において、国内第1位を獲得しています。世界トップレベルの製錬技術を活かし、世界最大級の電気炉による効率的な製造を行っています。

電気炉から出る高温排ガスを鉬石の乾燥工程に利用することによるエネルギー使用量の削減や、廃棄物をニッケル鉬石と一緒に製錬することによるリサイクルなど、環境負荷低減のための工夫を行っています。

■フェロニッケル製造工程

INPUT	主な原料		総エネルギー	
	ニッケル鉬石 (Wet)	259 万t	総エネルギー	1,858 万GJ
副原料	33 万t	工業用水	669 万m ³	



鉬石運搬・乾燥工程

原料となる鉬石等は船舶によって運ばれ、一度貯鉬場にストックされます。鉬石等は貯鉬場からコンベアで製造所内へ運ばれ、乾燥炉で乾燥させます。



鉬石運搬コンベア：荷下ろしが終わった鉬石等を、全長2.4kmに及ぶコンベアで工場まで運びます。

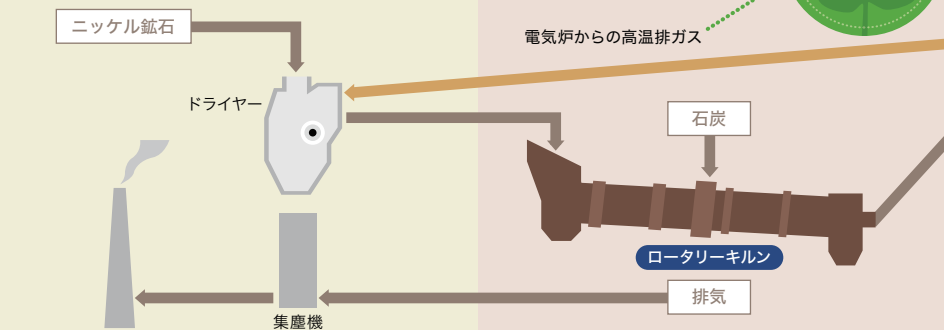
かしょう 煨焼工程

乾燥した鉬石を煨焼設備（ロータリーキルン）で熱処理し、水分（附着水・結晶水）の除去等を行います。



ロータリーキルン：全長100mを超える煨焼設備であり、乾燥した鉬石等を約1,000度まで熱し、熱処理します。

ECO
高温排ガスの
利活用



製錬工程

世界最大級の電気炉3基により、効率的にフェロニッケルを製錬します。電気炉の高温排ガスは乾燥工程での熱源として利用し、エネルギー使用量を低減しています。



フェロニッケル製錬電気炉：世界最大級の電気炉であり、鉬石等を約1,500度の熱で溶かし、フェロニッケルを製錬します。



ECO
環境にやさしい
リサイクル製品

製品		大気放出	
フェロニッケル (gross)	23.5 万t	CO ₂	137 万t
資源リサイクル	フェロニッケルスラグ 136 万t	SO _x	1,753 t
排水	放流水 453 万m ³	NO _x	2,513 t
		ばいじん	37 t

鑄造工程

製錬したフェロニッケル（溶湯）を20kgのインゴットと、粒状のショットに成型し、製品にします。



ショット鑄造：溶湯を水槽内の水で急冷し、小さな粒状に仕上げます。
インゴット鑄造：溶湯を鑄型に流し込んで20kgのインゴットに仕上げます。

OUTPUT

環境負荷低減に寄与するエコ製品

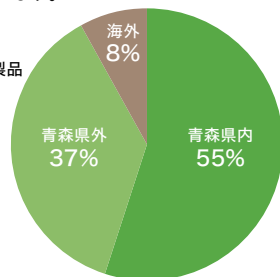


副産物の有効活用

フェロニッケル製造工程から副産物として大量に得られるフェロニッケルスラグを、徐冷法により冷却後、使用用途に応じた製品の造り込みを行うことで全量再資源化し、幅広い用途に利用できる魅力ある製品として販売しています。当社の再資源化技術は、環境に優しく、省エネルギーにも貢献するものとして注目されています。

当社のフェロニッケルスラグ製品は構成成分が安定しており、天然資源と同等、またはそれ以上の品質を持っています。そのため、天然資源の節減だけでなく、循環型社会の形成にも寄与しています。

■2018年度
フェロニッケルスラグ製品
販売実績（地域別）



●土木用資材 バムコクラストン

バムコクラストンは、徐冷法により冷却したフェロニッケルスラグを破碎し粒度調整した製品です。その特徴は有害物質を含まず高い安全性を有し、土木用資材である山砂や砕石の代替品として多く使用されています。

また、締め後の路床支持力が高く、施工が容易で凍上抑制に優れていることから、寒冷地での道路用材料使用にも適しています。

フェロニッケルスラグ製品のLCA

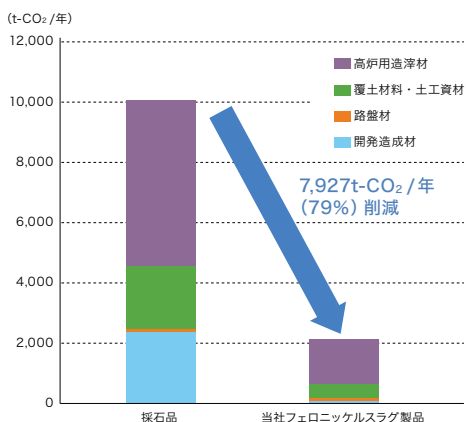
当社のフェロニッケルスラグ製品は、有害物質を含まないため環境に優しく高い安全性を誇り、環境負荷低減にも貢献するものとして注目されています。

LCA^{※1}による評価においても、当社で製造したフェロニッケルスラグ製品は、採石品^{※2}に比べCO₂排出量が削減でき、環境に貢献していることがわかりました^{※3}。

※1: Life Cycle Assessmentの略。製品の生涯（資源の採取、製造、使用、廃棄）における環境負荷を定量化する手法。
※2: 天然の石を採取・採掘して製造した製品
※3: 2018年度に製造したフェロニッケルスラグ製品を対象にした評価結果

■フェロニッケルスラグ製品の環境貢献度

フェロニッケルスラグ製品の用途	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /年)		CO ₂ 削減率
	採石品	当社フェロニッケルスラグ製品	
徐冷滓- 開発造成材	2,360	44	98%
徐冷滓- 路盤材	115	32	72%
徐冷滓- 覆土材料・土工資材	2,059	571	72%
徐冷滓- 高炉用造滓材	5,518	1,477	73%
合計	10,052	2,124	79%



製品情報についてはこちら <https://www.pacific-metals.co.jp/products/kras.html>

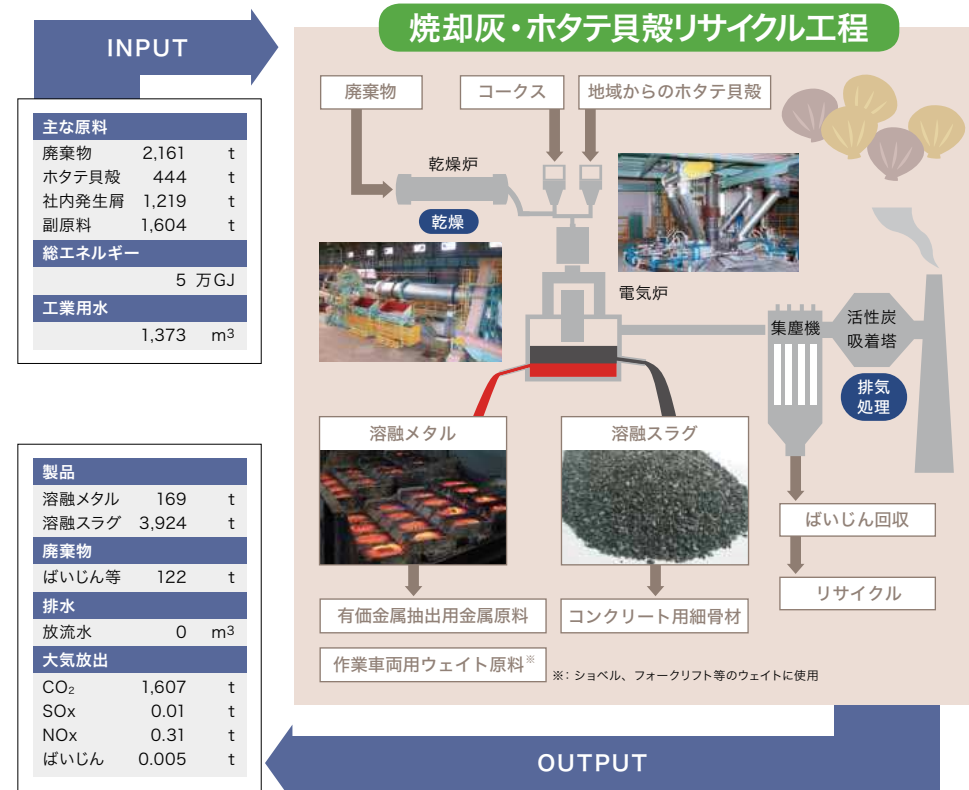
環境に貢献するサービス

～廃棄物リサイクル事業～



当社は、フェロニッケル製錬で培った高度な技術を活用し、廃棄物リサイクル事業を行っています。焼却灰・ホタテ貝殻リサイクル施設では、県内市町村で発生する一般

廃棄物の焼却灰や産業廃棄物、青森県で処理が課題となっているホタテ貝殻を直流電気炉で溶融し、金属原料とコンクリート用細骨材（人工砂利）にリサイクルしています。



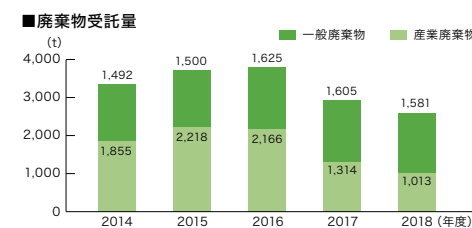
INPUT

主な原料	数量	単位
廃棄物	2,161	t
ホタテ貝殻	444	t
社内発生屑	1,219	t
副原料	1,604	t
総エネルギー	5	万GJ
工業用水	1,373	m ³

製品

溶融メタル	169	t
溶融スラグ	3,924	t
廃棄物		
ばいじん等	122	t
排水		
放流水	0	m ³
大気放出		
CO ₂	1,607	t
SO _x	0.01	t
NO _x	0.31	t
ばいじん	0.005	t

当社は、産業廃棄物をフェロニッケル製造施設で副原料および燃料として、また、焼却灰・ホタテ貝殻リサイクル施設で主原料として有効利用しています。2018年度の一般廃棄物と産業廃棄物の受託量は2,594tでした。処理可能な産業廃棄物、処分量、維持管理状況等を当社ホームページの「産業廃棄物処理業に関わる公開」に掲載しています。



産業廃棄物処理等の情報についてはこちら <https://www.pacific-metals.co.jp/environment/waste.html>

環境負荷低減の取り組み



当社は、製造工程において多くの電力や化石燃料を使用し、ばい煙等を排出しています。そのため、省エネ対策に積極的に取り組むとともに、大気、水域への環境負荷の低減に努めています。

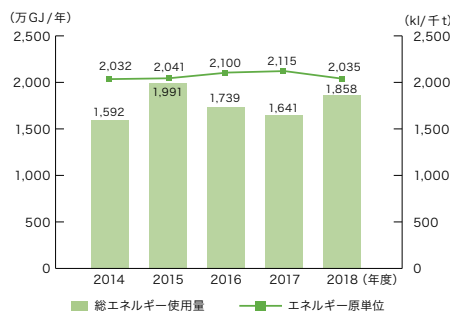
地球温暖化抑制・省エネルギー対策

製造工程において、電気炉高温排ガスをニッケル鉍石の乾燥工程に利用し、重油およびLNGの使用量を削減する等、エネルギーの効率的な活用に取り組んでいます。

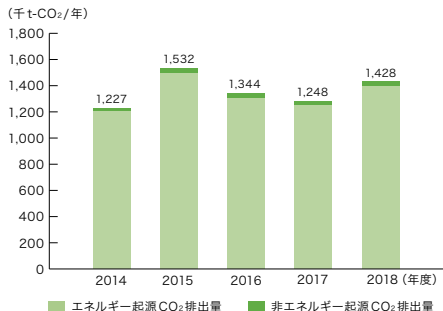
2018年度の総エネルギー使用量とCO₂排出量は、生産量が増加したため2017年度と比較しどちらも増加しま

したが、生産量あたりのエネルギー使用量（エネルギー原単位）は3.8%低減しました。これは生産量の増加に伴い熱効率が良くなったことに加え、エネルギー効率が良くなるよう工程を改善したことが要因と考えられます。

■総エネルギー使用量



■CO₂排出量



大気汚染防止対策

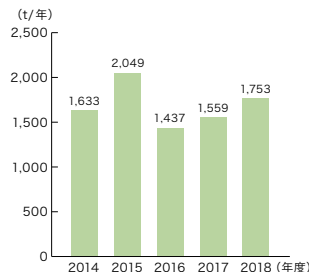
製造工程や自家発電設備から発生するばい煙を抑制するため、テレメータによる常時監視、排ガス連続測定装置の更新等の対策を講じるとともに、自主管理値の管理状況の社内回覧や法規制順守教育を実施し、社員の意識高揚を図っています。また、貯鉱場、場内路面などへの24時間散水やダストモニターによる常時監視を行い、粉じん

の飛散を防止しています。2018年度は、生産量増加に伴い大気汚染物質の排出も増加しました。引き続きばい煙の抑制に努めていきます。

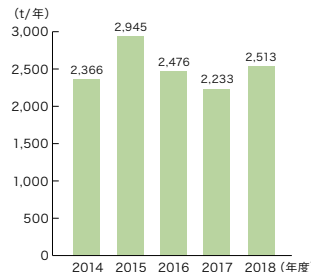


排ガス測定の教育

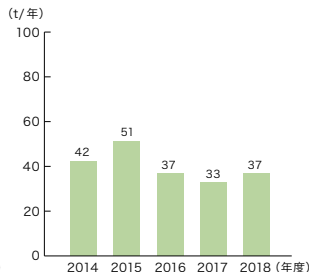
■SO_x排出量



■NO_x排出量



■ばいじん排出量

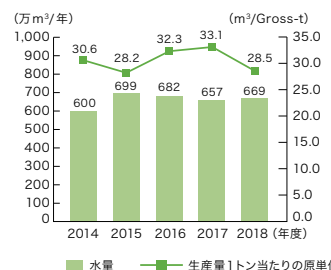


水質汚濁防止対策

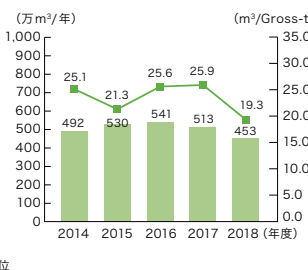
電気炉やフェロニッケルスラグの冷却に循環水を利用することにより水使用量の削減に取り組んでいます。排水については、定期検査に加え、連続監視モニターによるリアルタイム監視や社員による巡視など日々の管理を徹底して

います。また、排水終末処理施設では、降雨時の濁度濃度上昇の際に処理水量の調整を行う等適切な管理を行っています。2018年度も排水の協定値超過はありませんでした。

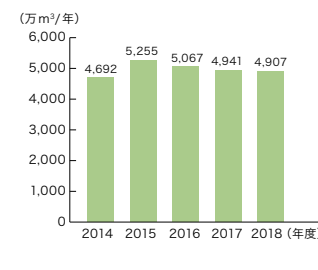
■給水量



■総排水量



■循環利用水量



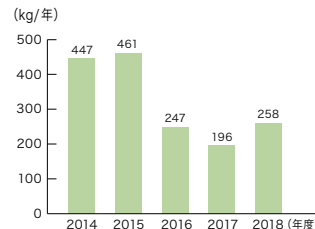
化学物質の適正管理

PRTR制度に基づき、届出対象物質の排出量・移動量を把握し、毎年行政への届け出を行っています。2018年度のPRTR届出対象物質は、表に示す4種類でした。化学物質については、購入量・使用量・保管量を管理し、有害物質の使用量を削減する取り組みを行っています。2019年度には薬品管理システムを導入し、さらに徹底した管理

を行う予定です。

また、フェロニッケル製造工程から排出されるニッケル化合物を当社の最も重要な管理項目の一つとし、ダストモニターの設置や24時間散水、モータースイーパーによる清掃などの対策を講じています。

■ニッケル化合物排出量



■2018年度PRTR届出対象物質

排出量	場所	ニッケル化合物 (kg/年)	クロム及び三価クロム化合物 (kg/年)	マンガン及びその化合物 (kg/年)	ダイオキシン類 (mg/年)
		大気	209	71	46
排出量	水域	49	0	0	0
	土壌	0	0	0	0
	所内埋立	0	0	0	0
移動量	社外廃棄物	0	0	0	18

環境法規制等への対応

フロン排出抑制法に基づき、当社で保有する業務用のエアコン・冷凍冷蔵機器等の点検を定期的に行っています。点検の結果、報告が必要な漏えい等はありませんでした。大気汚染防止法の水銀排出施設である廃棄物焼却炉については、法に則り排ガス中の全水銀を測定しています。

廃棄物処理法における水銀使用製品廃棄物（蛍光灯等）についても適切に処理委託しています。また、PCB含有機器のうち大型変圧器の微量PCB含有絶縁油の処理に関しては、撤去を進めています。

当社は、品質マネジメントシステム(QMS)および工業標準化法に基づき、全社一丸となって、ステークホルダーの皆様から信頼される製品を確実に提供するため、品質管理活動を推進しています。

品質管理

当社は、日本鉄鋼連盟の「鉄鋼業における品質保証体制強化に向けたガイドライン」および日本鉱業協会の「非鉄スラグ製品の製造・販売ガイドライン」に従った品質管理体制を構築しています。製品の品質規格を満たすとともに、お客様の要望に応え、かつ環境汚染のない安全で質の高い製品を常に提供できるように品質管理活動を行っています。

主な取り組み	具体的な活動実績
顧客満足度向上に向けた方策	フェロニッケル製品については、お客様が要望する製品品質に対するばらつきが少なく、かつ、取り扱いやすい形状の製品の提供、並びに希望納期への確実な対応を行うことにより、お客様から高い評価をいただいています。顧客満足度調査や日々のお客様とのコミュニケーションによって問題点や改善点を見出し、顧客満足度を少しでも高めるべく対応しています。スラグ製品(フェロニッケルスラグ製品、溶融スラグ製品)は、製品の安全性確保のために、土壌汚染対策法に基づく溶出量試験、含有量試験の定期的な実施により無害であることを確認しています。また、お客様とのコミュニケーションにより要求される品質(粒度・化学成分)の実現についても、高い評価をいただいています。さらに、フェロニッケルスラグ製品は、販売先で生活環境保全上の支障をきたすことがないように、日本鉱業協会「非鉄スラグ製品の製造・販売管理ガイドライン」に則り、生産から販売後の現地確認に至るまで厳格に管理しています。
社内品質管理能力のレベルアップへの支援	2018年度は「品質に関係する不適正事例」と、2017年度から継続している「QC手法教育」について2回ずつ社内教育を実施しました。不適正事例については、その発生原因や結果、対応などについて解説し、「長年築き上げた信用も、一瞬にして失くしてしまう」リスクがあることを教育しました。2019年度も教育内容を改善し、分かり易い教育を目標に継続して実施していきます。
製品品質の信頼性向上のための分析技術のブラッシュアップ	製品品質の信頼性を確保するために必要な分析・試験において、ベテラン社員からの技術伝承が課題となっています。手順書には記載できない、ベテラン社員の感覚的な技術やノウハウなどの暗黙知を聞き出し、スキル表として図や写真などを交え文書化する活動を行いました。そのスキル表をもとにOJTを行うことで、確実に技術伝承の成果を上げています。 スキル表を用いた技術伝承 
試験所・校正機関の認定規格 ISO/IEC 17025の試験所認定	フェロニッケル製品やニッケル鉱石の価格は、ニッケル品位で決定されるため、ニッケル分析値の信頼性確保が重要となります。そのため、当社では「フェロニッケル中の成分の化学分析方法」、「フェロニッケル中の成分の蛍光X線分析方法」、「ニッケル鉱石中のニッケルの化学分析方法」について、ISO/IEC 17025の認定を受けています。これにより、当社製品は検査や原料の受入検査結果の国際的・客観的な信頼性の確保に寄与しています。2019年度は、ISO/IEC 17025(2017年版)への移行審査を計画しています。

当社は、1998年にISO9001を認証登録し、維持しています。2015年度からは、統合マネジメントシステムとしてEMS、OHSASと併せて運用しています。

2018年度は、10月に定期審査を受審しました。その結果、大きな問題点はなく、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムが適切に維持されていることが確認されました。当社のQMS活動では、原料調達安定化とコス

トダウンが喫緊の課題であるため、各部署で関連した目標を推進しています。調達部では、「IMS 目標管理進捗状況兼実施報告書」において、フィリピン、ニューカレドニアなど5カ所の新規調達先の開拓等の目標を掲げて活動を行っており、外部要因が複雑さを増すなかで、さまざまな工夫を行った取り組みを実施していることを評価していただきました。

株主・投資家の皆様に適正でわかりやすい情報開示に努めています。ホームページを活用した各種IR情報の公表を中心に、説明会の開催を行っています。

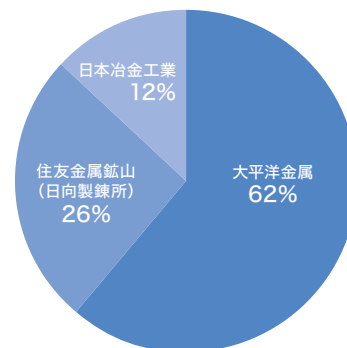
IR活動

当社は、IR担当取締役を中心にIR委員会を設置し、全ての株主・投資家の皆様と建設的な対話を促進するための体制を整備しています。

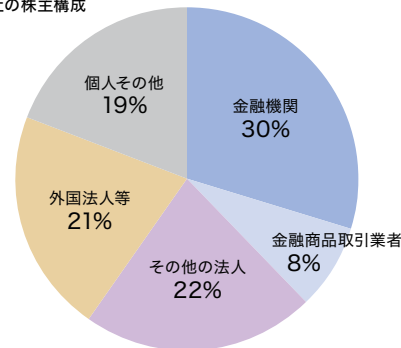
定時株主総会を毎年6月に開催するとともに、第2四半期決算の際にも決算説明会を実施し、当社事業の業績や計画、戦略などを説明しています。

また、企業体質の充実・強化を図りつつ、利益配当金によって株主の皆様への利益還元にも努めています。

■当社の業績(日本のフェロニッケル生産における当社の割合)



■当社の株主構成



株主・投資家の皆様との対話

IRに関するアナリスト・機関投資家向けの説明会を年2回定期的に行っています。

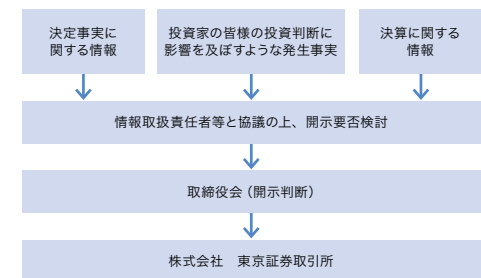
株主の皆様からのご意見は、取締役会議長を中心に取締役会全体に確実に共有されるよう努めています。また、株主の皆様との対話を行う際は、インサイダー情報の管理を適切に行うとともに、株主間での情報格差を生じさせないよう十分留意しています。

情報開示

「コーポレートガバナンスに関する基本方針」に定める情報開示方針に基づき、各種情報について当社ホームページを中心に適時適切に開示しています。

当社は、決定事実に関する情報、投資家の皆様の投資判断に影響を及ぼすような発生事実、決算に関する情報に関し、開示体制を構築しています。重要な事実が発生した場合は社内関係部署で開示の可否を検討し、取締役会での開示判断を行い、開示する場合は、東京証券取引所に開示する体制をとっています。

■情報開示の体制



株主総会に関しては、株主の皆様が議案の内容を十分に精査し、権利を適切に行使することができるよう、株主総会招集通知の早期発送を行っています。さらに、当該招集通知の発送日前に証券取引所や当社ホームページでの開示を行っています。

IRに関する資料についてはこちら URL:<https://www.pacific-metals.co.jp/ir/index.html>



地域社会とのつながりを大切に、清掃活動を実施するとともに、地域の諸団体への協賛や地域イベントへの参加など地域活性化に努めています。地域に密着した取り組みを通じて、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図っています。

工場見学会の開催

当社では、地域の皆さまに事業活動への理解を深めていただくため、工場見学会を行っています。2019年3月9日には「八戸工場大学」の受講生を対象とした八戸製造所の工場見学会を開催しました。

八戸工場大学は八戸市が主催しており、地域の工場の魅力や価値を再発見し、発信していく市民活動です。当社は2015年度より講師の派遣や工場景観を活用したアートイベントの実施など、継続して協力しています。

今回の工場見学会には、受講生の地域住民28名が参加し、ロータリーキルン・電気炉・フェロニッケルスラグ出滓などを実際に見ることで、当社について理解を深めていただく機会となりました。

参加された方は、フェロニッケルの製造工程や排水処理



工場見学会参加者との集合写真

工場周辺や地域の清掃活動

当社は、地域環境美化および社会貢献を目的に工場周辺臨港道路沿いの清掃活動を継続的に行っています。2018年7月に実施した清掃活動では、当社正門前駐車場の清掃を行いました。また、2018年10月には、当社社員と関係会社および協力会社の従業員合わせて約40名が4つのブロックに分かれて清掃活動を行いました。

施設に興味を持たれていました。特に、汚濁物質を取り除いた後の水については「工場で使った水をきれいにしてから放流しているのを初めて知った」「ピーカーに注がれた排水処理した水が透明で驚いた」といった感想をいただきました。

2018年度は他にも、7月30日に公益財団法人 八戸地域高度技術振興センター主催の「学生・生徒のものづくり企業訪問ツアー」や、10月18日に八戸市民を対象とした八戸市環境部環境政策課主催の「エコツアー」に協力し地域住民向けの見学会を開催しました。

今後も、地域の皆さまに当社について知っていただく機会を作っていきます。



海洋放流口のサンプル水

ニッケル4社 環境・安全交流会の開催

当社は、他の国内ニッケル企業3社とともに、環境・安全に関わる問題点について情報共有を行うことを目的に、「環境・安全交流会」を2009年に発足させました。

2018年度は、株式会社日向製錬所にて「ニッケルの発じん対策」、「重機の安全対策」、「協力会社の管理体制」の3つのテーマを中心に議論しました。この交流会は、各社の取り組みについて情報共有ができることから非常に有意義なコミュニケーションの場となっています。

当社は、「ご安全に!」を合言葉に自主的な労働災害防止活動を展開し、安全意識向上により労働災害の防止に努めています。また、従業員が安全で健康に過ごせる職場環境を維持できるよう健康管理活動を推進しています。

労働安全活動

2018年度は、「無事故・無災害の必達」を全社目標に掲げ、労働安全衛生対策の強化を図ることを重点テーマとして、危険体感教育やOJT教育の見直し、安全ルールの再点検、連絡体制の構築、安全技能競技会の開催等に取り組みました。

危険体感教育では、ベルトコンベアへの「挟まれ・巻き込まれ」を体感できる設備を製作し、参加者が危険な場面を疑似体験する教育を行うなど、各職場においてトラブル発生に備えたOJT教育を行っています。また、安全技能競技会では、「フォークリフト」、「クレーン・玉掛け」の種目で競技を実施し、作業車両の危険性と安全確認の重要性を再認識しました。自分たちの職場から事故・災害を発生させないという意識を高め、引き続き事故・災害の防止に努めていきます。



ベルトコンベアへの「挟まれ・巻き込まれ」危険体感教育

衛生活動

社員の健康増進を目的として、7月にロコモティブシンドローム予防についての運動教室を実施しました。9月には昨年度に引き続き、社内駅伝大会を開催しました。大会前には、フィットネスクラブより講師を招いて「駅伝大会に向けた走り方講座」を開催し、大会に参加する方はもちろん、日頃からランニングに励んでいる方々が参加し、走り方のフォームや練習前後のストレッチについて学びました。

また、八戸製造所内にはジムと浴場があり、従業員は誰でも利用することができます。仕事の後に体を動かしたり汗を流したりすることでリフレッシュできるよう社員の健康促進に配慮しています。



八戸製造所内のジムと浴場

防災活動

2018年度は、総合防災訓練、夜間・休日訓練、津波避難訓練を全社で実施しました。総合防災訓練では、八戸地区共同防災センターの協力の下、大規模地震発生により構内で火災が発生したという想定で、当社自衛消防隊と連携した消火訓練および負傷者の救出・救助訓練を行いました。

また、工場内における防災マップを改訂し、全従業員に配布しました。防災マップは、有事の際の初動対応や消防・警察への情報提供等について記載されており、見てすぐに行動できるように作成されています。



自衛消防隊による放水訓練

働きがいのある職場環境づくり

社員一人ひとりが仕事にやりがいを感じられるよう2018年度から新しい人事制度を導入しました。評価者との対話を進め、透明性があり公平な評価を行い、評価を行った結果をフィードバックすることによりモチベーションを上げて働けることを重要視しています。また、定時退社を基本とし、勤怠情報をシステム管理することで生産性の向上にも取り組んでいます。全社員が持っている能力を最大限に発揮し、働きがいのある職場環境を目指していきます。



第三者意見

早稲田大学
理工学術院教授
所 千晴 様

大平洋金属株式会社は、日本を代表するフェロニッケルメーカーとして、世界トップクラスのフェロニッケルメーカーとなるべく明確な長期ビジョンを持ち、活発な企業活動を行っています。以下に、この環境・社会報告書2019の中から特に評価される取り組みと、さらなる発展に向けて期待する点について述べさせていただきます。

フェロニッケル生産の持続可能な発展に対する取り組み

ニッケルのサプライチェーンを考えますと、ステンレス原料としてはもちろんのこと、ノーベル賞受賞でも話題となっているリチウムイオン電池正極材の原料としても、これからますます需要は拡大するものと予想されます。したがって、様々な観点からフェロニッケル生産の多様化・多角化をすすめている取り組みは高く評価できます。

国内では資源の安定的確保を目指すべく、産官学が協同したオールジャパン体制での技術開発や人材育成への取り組みも始まっています。日本を代表するフェロニッケルメーカーとして、それらの取り組みとも連携し、新規技術開発や多様な人材育成、海外展開へと加速していただければと思います。

SDGsに対する多種多様な取り組み

CO₂などの地球温暖化ガス排出量削減への取り組みのみならず、副産物として発生するスラグの再資源化や、焼却灰・ホタテ貝殻などの廃棄物の再利用、各製造工程における確実な大気汚染防止および水質汚濁防止など、SDGsを強く意識し、複数の目標に貢献する多様な取り組みを行っていることは高く評価できます。この報告書も、各取り組みとSDGsの17の目標とがそれぞれ明確に関連づけられており、大変見やすく構成されています。今後も製造工程への積極的な廃棄物利用や、スラグ用途の拡大などを通じて、ハイレベルな資源循環プロセスの構築に引き続き取り組んでいただければと思います。

社員が満足する職場環境づくりへの取り組み

社員一人ひとりが仕事にやりがいを感じられるような新規人事制度の導入や、労働安全活動の重視などを通じて、働きがいのある企業を目指している取り組みは高く評価できます。これからは、SDGsにも掲げられている人材の多様化も重要な視点として積極的に取り組んでいただければと思います。

最後に

ESGの概念は今後ますます注目を増すと考えられます。本報告書でもその取り組みについて触れられていますが、今後はさらにそれぞれの項目における取り組みを充実させ、より魅力のある発信をしていただければと思います。

「人の力を活かし、地球の資源をより有用なるものとして提供し、人類社会の幸福に貢献する」という経営理念は、まさにSDGsに通じる考え方です。今後も革新的な技術とシステムをもって、持続可能な社会の実現に向けて貢献されることを期待しております。

第三者意見を受けて



取締役 上席執行役員
品質・環境管理部長
猪股 吉晴

早稲田大学理工学術院教授、所千晴様におかれましては、ご多忙中にもかかわらず、当社の「環境・社会報告書2019」に対する第三者意見を寄稿いただき、厚く御礼申し上げます。また、当社の事業内容および当社がおかれている事業環境をご理解いただいたうえで、環境・社会報告書の取り組み内容を評価していただきまして、深く感謝申し上げます。

所様に評価していただきましてとおり、当社ではフェロニッケル生産を基盤に、限りある資源の有効活用に向けた事業の多様化・多角化の取り組みを推進しております。新中期経営計画PAMCO-2021においても、これまでの取り組みをさらに発展・強化していく所存です。今後も、事業活動を通じてSDGsを積極的に推進し、社会の持続的発展に貢献して

いきます。そのためにも、今回発行いたしました「環境・社会報告書2019」は、各項目に対応するSDGsの目標を掲載しております。

また、ご提案いただきました人材の多様化も含め、働きがいのある企業を目指すことは当社のみならず全ての企業に共通する課題であると思いますので、それに向けての取り組みも推進していきます。

1949	日本曹達株式会社の鉄鋼部門より分離独立し、日曹製鋼株式会社として発足
1952	東京証券取引所、大阪証券取引所に上場
1954	新発田工場の砂鉄銹設備をフェロニッケル製錬設備に転換
1957	八戸工場完成、砂鉄銹の製造開始
1959	フェロニッケル製錬を専業とする大平洋ニッケル株式会社設立に伴い、新発田工場を分離
1965	八戸工場の銹鉄生産設備の一部を合金鉄およびフェロニッケル製錬用に転換、フェロマンガンに続いて、1966年にはフェロニッケル、1968年にはステンレス鋼の生産を開始する。1969年に2.5万KVA、1970年に4万KVAの大型電気炉2基を設置し、フェロニッケルの生産を増強
1970	大平洋ニッケル株式会社を吸収合併し、大平洋金属株式会社に社名変更 フェロニッケルのトップメーカーとしての基盤を確立
1972	インドネシア・アネカタンバン社フェロニッケル製錬工場建設の技術援助契約締結（アナム計画） 公害防止管理者水質関係第一種資格の当社社員初取得
1973	フィリピンのリオ・チュバ・ニッケル鉱山（株）に資本参加し、ニッケル鉱山を開発
1974	テレメータシステム協定締結 公害防止管理者大気関係第一種資格の当社社員初取得
1978	公害防止協定締結
1980	産業廃棄物処分業許可
1983	岩瀬工場を分離し、大平洋ランダム（株）に研削材部門を営業譲渡
1984	直江津、富山、習志野工場を分離し、鋳鋼、鍛鋼、機械部門をそれぞれ大平洋特殊鋳造（株）、大平洋製鋼（株）、大平洋機工（株）に営業譲渡
1985	八戸工場を八戸製造所に改称
1992	一般・産業廃棄物最終処分場設置
1993	産業廃棄物技術管理士資格の当社社員初取得
1995	八戸製造所にフェロニッケル製錬電気炉6万KVA設置、3炉体制確立
1996	八戸港河原木第2埠頭完成（公共）
1997	(株)大平洋エネルギーセンターを設立 原料輸送コンベアライン設備完成（河原木）
1998	ISO9002取得

1999	本社機構を八戸に移転しフェロニッケル専業メーカーになる 環境計量証明事業の登録
2000	株式会社大平洋エネルギーセンターの北沼発電所が電力供給開始
2003	リサイクル事業の「焼却灰・ホタテ貝殻リサイクル施設」完成 ISO9001:2000に移行
2005	フェロニッケル 100万トン生産達成 青森県環境影響評価条例に伴う環境アセスメントを実施 特別管理産業廃棄物処分業許可
2006	フェロニッケル製造ライン増強工事完了 リサイクル事業の「溶解灰リサイクル施設」完成 島守一般・産業廃棄物最終処分場廃止 第二発電所脱硝装置設置
2007	全排水溝へ排水モニター設置 排水口の一部に小規模排水処理装置を設置
2008	フィリピン事務所 開所 ジャカルタ事務所 開所
2009	ISO14001:2004取得 湿式パイロットプラント設備 完成 フェロニッケル製造ライン増強工事完了
2010	鉱石ヤードへのダストモニター設置
2011	廃棄物処理状況のホームページ公開 排水口、煙突監視カメラの設置
2012	OHSAS18001:2007 取得 ISO17025:2005取得
2013	排水終末処理施設運転開始
2014	統合マネジメントシステム運用開始
2015	コーポレートガバナンスコードに関する基本方針策定
2016	新たに「長期ビジョン」を策定
2017	一般社団法人 青森県産業廃棄物協会から「優良事業所」表彰
2018	もったいない・あおもり県民運動推進会議（会長：青森県知事）より「もったいない・あおもり賞」を受賞

 **大平洋金属株式会社**

東京本店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1(大手町ビル)

八戸本社(製造所) 〒031-8617 青森県八戸市大字河原木字遠山新田5-2

URL <https://www.pacific-metals.co.jp/>

お問い合わせ先:品質・環境管理部

TEL: 0178-47-7281 FAX: 0178-47-7259